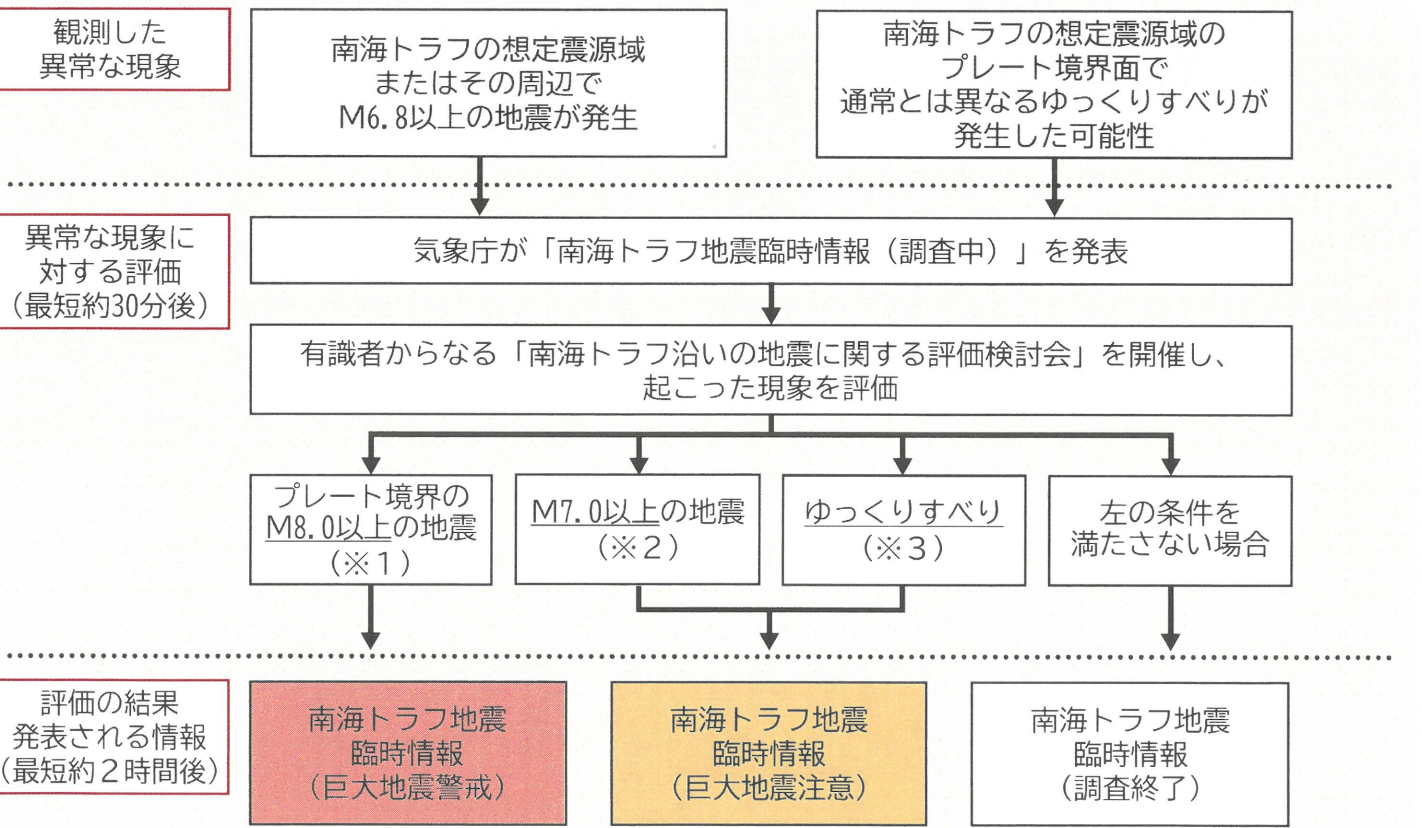


南海トラフ地震臨時情報とは

気象庁では、南海トラフ沿いの大規模地震の発生の可能性が平常時と比べて相対的に高まったと評価された場合等に、「南海トラフ地震臨時情報」を発表します。
南海トラフ地震臨時情報の内容や取るべき行動等を理解し、安全の確保に努めましょう。

南海トラフ地震臨時情報が発表される異常な現象と発表の流れ

臨時情報が発表される異常な現象には、「半割れケース」、「一部割れケース」、「ゆっくりすべりケース」の3通りがあります。これらの3つの異常な現象に対する評価により、発表される情報が異なります。
まず、発表される情報を把握しましょう。



※1 南海トラフの想定震源域内のプレート境界においてM8.0以上の地震が発生した場合（半割れケース）
※2 南海トラフの想定震源域内のプレート境界においてM7.0以上、M8.0未満の地震が発生した場合、または南海トラフの想定震源域内のプレート境界以外や想定震源域の海溝軸外側50km程度までの範囲でM7.0以上の地震が発生した場合（一部割れケース）
※3 ひずみ計等で有意な変化として捉えられる、短い期間にプレート境界の固着状態が明らかに変化しているような通常とは異なるゆっくりすべりが観測された場合（ゆっくりすべりケース）
（参照：南海トラフ地震の多様な発生形態に備えた防災対応検討ガイドライン【第1版】）

南海トラフ地震臨時情報の種類と発表条件

南海トラフ地震臨時情報は、情報を受け取る市民の皆様が防災対応をイメージし、適切な備えが実施できるよう、「巨大地震警戒」、「巨大地震注意」などのキーワードを付けて発表されます。
キーワード及び発表条件を把握し、日頃から防災対応に備えましょう。

キーワード	発表条件
調査中	観測された異常な現象（南海トラフでM6.8程度以上の地震発生）が南海トラフ沿いの大規模な地震と関連するかどうか調査が開始された場合、または調査を継続している場合
巨大地震警戒	巨大地震の発生に警戒が必要な場合 ※南海トラフ沿いの想定震源域のプレート境界において、M8.0以上の地震が発生したと評価された場合
巨大地震注意	巨大地震の発生に注意が必要な場合 ※南海トラフ沿いの想定震源域のプレート境界において、M7.0以上、M8.0未満の地震や通常と異なるゆっくりすべりが発生したと評価された場合等
調査終了	「巨大地震警戒」、「巨大地震注意」のいずれにも当てはまらない現象と評価された場合

臨時情報が発表された場合の防災対応

M8.0以上の地震発生直後に発表されていた大津波警報または津波警報が、津波注意報に切り替わったあと、避難継続が必要かどうかを検討しておく必要があります。避難継続の必要性の判断は、後発地震が発生してからの避難で間に合うかどうかを検討することを基本とすることが国のガイドラインで示されています。
具体的には、30cm以上の津波浸水が地震発生から30分以内に生じる地域を「避難検討対象地域」とし、その中から後発地震後の避難では間に合わないおそれがある地域を「事前避難対象地域」として設定し、その地域の方を対象に避難指示等を発令し避難を継続していただくことになります。
四国中央市においては、津波により30分以内に30cm以上の浸水が生じる地域はありませんが、愛媛県の指針により「地盤沈下や堤防の破壊等による海水流入等、津波以外の要因による浸水地域も検討対象地域とする」と示されていることから、県の浸水想定図において想定されている次の避難検討対象地域すべてを事前避難対象地域として設定します。

事前避難対象地域

- 川之江町の一部
- 三島中央1丁目の一部
- 豊岡町長田の一部
- 土居町蕪崎の一部
- 妻鳥町の一部
- 寒川町の一部
- 土居町津根の一部
- 土居町天満の一部
- 村松町の一部
- 豊岡町豊田の一部
- 土居町藤原7番耕地の一部



事前避難対象地域（市HP）

臨時情報が発表された場合は、事前避難対象地域以外の方も地震への備えの再確認などを行いましょう。

■日頃からの地震への備えの再確認の例

- ・避難場所・避難所や避難経路の確認
- ・家族との安否確認手段の確認
- ・家具等の固定の確認
- ・非常持出品の確認 など

■できるだけ安全な防災行動の例

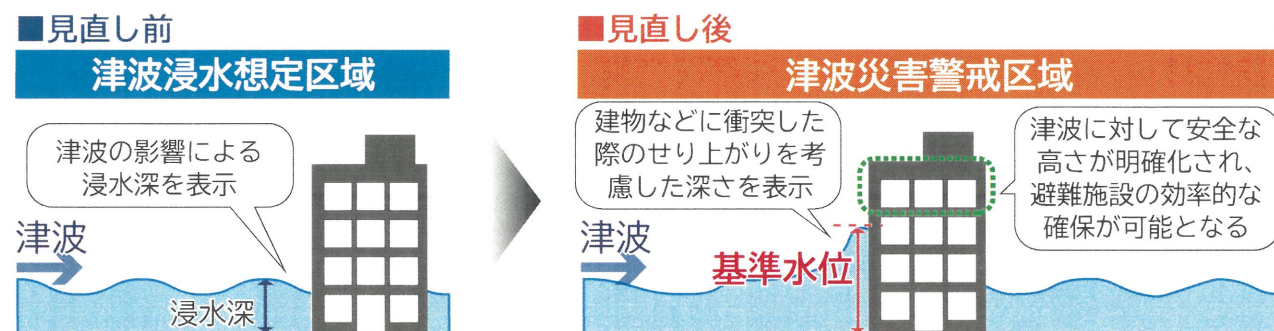
- ・高い所に物を置かない
- ・屋内のできるだけ安全な場所で生活
- ・すぐに避難できる準備（非常持出品袋等）
- ・危険なところに行きたくない など

地震・津波

津波災害警戒区域の指定

愛媛県は、令和2年3月に警戒避難体制を特に整備すべき区域として、津波災害警戒区域を指定しました。津波災害警戒区域の指定により、基準水位が示され、津波避難対策の取組が強化されます。

以前の四国中央市防災マップでは、津波浸水想定区域に基づく浸水深を示していましたが、今回の見直しでは、津波災害警戒区域に基づく基準水位を示しています。この基準水位は、津波が建物などに衝突した際のせり上がりを考慮した深さとして、実際に発生する可能性のある津波の影響を示した高さとなっていますので、ご自宅などの危険性の確認をお願いします。



地震・津波への備えとして家の中や地域の安全性の向上

地震・津波への備えとして家の中や地域の安全性を高めることが重要です。

四国中央市では、地震・津波に備えて、災害に強いまちづくりに向けた様々な支援策に取り組んでいます。家の中や地域の安全性を高めるため、支援事業の活用をご検討ください。

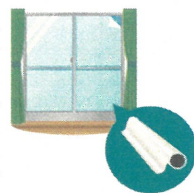
■家具の転倒防止及び落下対策

寝室に倒れそうな家具を置かない、扉をふさぐような配置を避けるとともに、L字型金具やつつぱり棒などで家具の固定を行いましょう。



■ガラスの飛散防止対策

窓や棚などのガラスには、飛散防止フィルムなどを貼りましょう。また、ガラスが飛散した場合も安全に歩けるよう、運動靴や厚手のスリッパなどをすぐ取り出せる場所に置いておきましょう。



■木造住宅の耐震化

市では、地震発生時における住宅の安全性の向上を図るため、木造住宅の耐震診断・耐震改修工事にかかる費用の一部を補助しています。昭和56年以前に建てられた住宅などにお住まいの方は、耐震化をご検討ください。



補助概要
(市HP)

■木造住宅耐震シェルター設置工事

一部屋（居間や寝室など）だけでも木材や鉄骨で強固な箱型の空間（シェルター）を作り、安全性を高めることも有効です。耐震化と同様に、木造住宅耐震シェルター設置工事の費用の一部を補助していますので、該当する住宅にお住まいの方は、ご検討ください。



補助概要
(市HP)

■ブロック塀等の安全対策

災害時の安全性及び避難路等の機能を確保するため、市が指定する道路に面した危険ブロック塀等の除却または建替えを行う工事に要する費用の一部を補助しています。点検を行い、倒壊の危険性がある場合は、対策に取り組みましょう。



補助概要
(市HP)

津波警報・注意報等の発表

地震発生後、津波による災害の発生が予想される場合には、気象庁より大津波警報や津波警報、津波注意報が発表されます。

警報や注意報の内容を理解し、警報や注意報が発表された際には、すぐに下記のような行動を取りましょう。

	発表される津波の高さ		想定される被害	取るべき行動
	数値での発表 (予想される津波の高さ区分)	巨大地震の 場合の表現		
大津波警報 (特別警報)	10m超 (10m<予想高さ)	巨大	木造家屋が全壊・流失し、人は津波による流れに巻き込まれます。 	沿岸部や川沿いにいる人は、直ちに高台や近くのビルなど安全な場所へ避難してください。
	10m (5m<予想高さ≤10m)			
	5m (3m<予想高さ≤5m)			
津波警報	3m (1m<予想高さ≤3m)	高い	標高の低いところでは津波が襲い、浸水被害が発生します。人は津波による流れに巻き込まれます。	ここなら安心と思わず、より高い場所を目指して避難しましょう！
津波注意報	1m (0.2m<予想高さ≤1m)	(表記しない)	海の中にいる人は速い流れに巻き込まれます。また、養殖いかだが流失し小型船舶が転覆します。	海の中にいる人は直ちに海から上がって、海岸から離れてください。

津波から身を守るポイント

津波から身を守るためには、「高いところへ一刻も早く逃げる」ことが大切です。津波から身を守るポイントを覚えておきましょう。

1 小さな揺れでも油断禁物

地震の揺れが小さくても大津波が発生する危険性があります。津波の浸水想定区域では、小さな揺れでも油断せず、まずは避難を優先しましょう。



2 デマや俗説を過信するな

「津波の前には潮が引く」といった俗説がありますが、地震の発生の仕方によっては、いきなり大きな波が押し寄せることがあります。デマや俗説を過信せず、市からの避難情報や、ラジオやテレビなどから発信される気象庁の情報等を確認し、素早い避難行動を取りましょう。



3 避難に車は使わない

車での避難は渋滞をうみ、被害を拡大させるおそれがあります。原則、避難は徒歩で行いましょう。



4 「遠く」よりも「高く」に

すでに津波による浸水が始まってしまったら、海岸から「より遠く」ではなく、近くの高台やビルなどの「より高い」場所に避難しましょう。



「シェイクアウトえひめ（県民総ぐるみ地震防災訓練）」への参加

愛媛県では、県民や事業者の地震発生時の安全確保行動の確認や防災意識の向上を目的として、南海トラフ地震を想定し、県下一斉に「シェイクアウトえひめ（県民総ぐるみ地震防災訓練）」を実施しています。「(1) まず低く＝DROP！」→「(2) 頭を守り＝COVER！」→「(3) 動かない＝HOLD ON！」の安全行動を約1分間行うもので、誰でも、どこでも参加することができますので、積極的に参加しましょう。

